



とっとり

公益財団法人
鳥取県国際交流財団
Tottori Prefectural International Exchange Foundation
公益財団法人鳥取県国際交流財団

国際通信

No. 151
Mar. 2026

TOTTORI KOKUSAI TSUSHIN 鳥取国际通讯 Bản tin quốc tế Tottori



表紙 Photo

「日本語ボランティア研修会(会話パートナー体験)」

Volunteer Japanese instructors' workshop (conversation partner style)

日语志愿者研修会(会话模式体验)

“Khóa tập huấn tình nguyện viên tiếng Nhật – Trải nghiệm vai trò bạn đồng hành hội thoại”

目次 Contents / 目录 / Mục lục

● TPIEF だより

- 新理事長就任のご挨拶 02
- 外国人防災勉強会・交流会in湯梨浜町
〈開催報告〉
- 令和7年度国際交流フェスティバル〈開催報告〉 03
- 令和8年度国際交流フェスティバルのご案内(予定)

● 特集 04 鳥取県内高校の国際交流活動の取組み

- 日本語ボランティア研修会〈開催報告〉 05
- 医療・コミュニティ通訳ボランティア講座(応用編)
〈開催報告〉
- JICAデスクよりお知らせ
- 英語版・中国語版・ベトナム語版
ダイジェスト 06・07
Information in English, Chinese and Vietnamese
英文版・中文版文摘・越语版
Bản tóm tắt bằng tiếng Anh-Hoa-Việt
- 賛助会員募集のご案内 08
- 米子事務所の日曜日開所日の変更について 08



新理事長 就任のご挨拶

このたび、国際交流財団の理事長に就任いたしました藤井喜臣と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私は、30年位前から鳥取県の国際交流に携わらせていただいております。2005年から2013年の間は、本財団の副理事長を務めておりましたが、近年、本財団の役割は大きく広がってきているように感じております。県内においては、従来から県民の皆様の国際理解のために、本機関紙でも紹介しておりますように、「国際交流フェスティバル」の開催や県内高校生の国際交流活動を支援してきております。皆さんご承知のように、県内に在

住される外国の方々が増加してきています。このため、本財団では、鳥取県と一緒に、県民はもとより、外国の方々暮らしやすい鳥取県となるように、「多文化共生プラン」の策定や「災害時多言語支援センター」設置の取組を進めていくこととしております。

今後とも県民の皆さんにとって、お役に立つ組織となるよう努力して参りますので、皆さんのご支援をよろしくお願いいたします。

公益財団法人
鳥取県国際交流財団
ふじい きしん
理事長 藤井 喜臣

TPIEF 外国人防災・交流会 in 湯梨浜町 を開催しました

日にち：2026年3月1日(日) 場所：湯梨浜町中央公民館

参加者：町内の技能実習生など、合計19名

湯梨浜町と共催し、外国人住民の防災知識の習得を目的とした防災勉強会を開催しました。続いて、外国人住民同士の交流の場となるよう、自治体や国際交流協会等の職員を交えた茶話会へ参加者を案内し、楽しいひとときを過ごしました。

企業説明会

(協力：湯梨浜町商工会)



外国人支援者ネットワークの構築を見据え、2月に町内の企業や団体等の皆様と意見交換を行いました。

防災勉強会

(協力：湯梨浜消防署、鳥取地方気象台)



水消火器や防災アプリ、当財団オリジナルの「防災かるた」を使って、防災を楽しく学びました。

交流会・相談会

(協力：湯梨浜町国際交流協会)



会話や軽食を楽しみながら、「住み続けたい湯梨浜町のまちづくり」について、グループで話し合いました。

令和7年度 International Exchange Festival

国際交流 フェスティバル

開催
報告

東部 第37回タイムフェスティバル2025

鳥取市

日時：2025年11月8日(土) 会場：とりぎん文化会館



パキスタンの
ピリヤニは即完売

来場者が
寄せたスマイルと
ともに記念写真

今回のテーマは、「World Fair ◎ Fair World 世界中の笑顔にエールを」。実行委員の中学生メンバーがタイムフェスティバルをイメージして、カラフルな横断幕を作成するなど、会場は華やかに彩られました。ハラル食材を大量に買うことが難しかったことから、数量限定となったパキスタンのピリヤニは即完売。初出展となったミャンマーブース、インドのダンス、ハンガリーの歌、アイルランドのアコーディオン演奏など、会場にはたくさんの笑顔が溢れ、鳥取のミニ万博は大盛況でした。

中部 くらよし国際交流フェスティバル2025

倉吉市

日時：2025年11月9日(日) 会場：伯耆しあわせの郷

今年はいにくに雨でしたが、例年と変わらず多くの来場者で賑わいました。

新たにステージパフォーマンスに参加される団体・個人の方が増え、国際色豊かなステージを見ながら飲食ブースで購入した世界各国の料理を堪能されている方が多く見受けられました。

また、多言語での会話が飛び交う会場は、国際交流フェスティバルにふさわしい雰囲気、参加者も来場者も楽しんでいる姿が印象的でした。



財団コーディネーターも
クイズで母国を紹介



新しく参加された
ミャンマーの舞踊

西部 よなご国際交流フェスティバル2025

米子市

日時：2025年11月3日(月・祝) 会場：米子市文化ホール



本場の
タイ料理
を提供

インドネシアの
島々を紹介

今年度は、実行委員長と副委員長を初めて高校生が務めるなど、若い力が活躍しました。そして、23団体が参加し、ステージや展示・体験、飲食販売を通して文化発信を行いました。

飲食ブースでは、インドネシア、フィリピン、ベトナム、タイ、中国といった国々の伝統料理が今年も会場を彩り、開始直後から行列で賑わいました。外国ならではの国民的料理は日頃食べる機会が少ないことから、この日を楽しみに毎年足を運ばれる方も増えています。地元の方と外国人住民の方々、お互いにとって心と心を繋ぐ大切な交流の日となりました。

令和8年度国際交流フェスティバルのご案内(予定)

第38回タイムフェスティバル2026

<日時> 2026年11月29日(日)

<会場> とりぎん文化会館

くらよし国際交流フェスティバル2026

<日時> 2026年11月8日(日)

<会場> 伯耆しあわせの郷

よなご国際交流フェスティバル2026

<日時> 2026年9月22日(火・祝)

<会場> 米子市文化ホール

鳥取県内高校の 国際交流活動の取組み



今年度、山陰・夢みなと博覧会記念基金による海外教育旅行助成を受けた東中西部の高校を1校ずつ紹介します。

東部

学校名 学校法人鶏鳴学園 青翔開智中学校・高等学校

事業名 SSHオーストラリア研修

実施期間 2025年10月17日(金)～25日(土)

参加生徒数 5名(高校1・2年生)



現地受入れ
高校前にて

オーストラリア・アデレードにて、Super Science High school (スーパーサイエンスハイスクール) SSH海外研修を実施しました。現地の高校生や大学、企業と協働し、テクノロジーを用いた課題解決案を英語で発表しました。

生徒たちは街中で発見した課題を、現地での議論や企業訪問を経て具体化していきました。自ら現地の教員に相談して3Dプリンターで試作品を作るなど、主体的にコミュニケーションを取る姿が随所に見られました。

生徒は、伝える難しさや伝わった時の喜びを知り、対話を通じた協働の重要性を学ぶとともに、日頃の探究活動で培ってきた課題解決力が、世界共通のスキルであると実感する貴重な機会となりました。



現地教員にアイデアを
説明する様子

中部

学校名 鳥取県立倉吉高等学校

事業名 シンガポール・マレーシア研修

実施期間 2025年7月27日(日)～8月1日(金)

参加生徒数 14名(高校2年生)



クアラルンプール
での楽しい食事

参加した生徒は、マレーシアのブルーモスクで肌の露出が無いように服を借りて見学し、イスラム建築の美しさに触れることができました。また、ヒンズー教の聖地であるバトゥー洞窟では、その迫力に圧倒されました。マレーシアでは目に入るもの、口に入れるものすべてが新鮮で、異文化を肌で感じることができました。

シンガポールでは英語の語学研修も兼ね、現地大学生と交流を行い、同世代の若者同士での国際コミュニケーションに時間を割きました。すぐに仲良くなって別れる際にも名残惜しそうでした。

帰国後には「とても楽しく有意義だった。」「あつという間だった。」などの声が聞かれ、有意義な活動となりました。



マレーシアー美しいモスク
ブルーモスクにて

西部

学校名 鳥取県立米子南高等学校

事業名 韓国江原特別自治道雪嶽高等学校との交流事業

実施期間 2025年10月25日(土)～29日(水)

参加生徒数 3名(高校2・3年生)



歓迎式典後の
記念撮影

米子南高等学校は長年に渡って大韓民国江原特別自治道の高校と交流を続けており、令和6年度には東草市の雪嶽(ソラク)高等学校との姉妹校締結を行いました。東草市は米子市と昨年姉妹都市提携30周年を迎えた関係の深い場所ということもあり、姉妹校締結の際には多くの方々にご協力いただきました。

昨年10月、本校教職員3名、生徒3名での雪嶽高等学校訪問の際には、日本語を学んでいる生徒の皆さんや先生方にとっても温かくもてなしていただきました。今年7月には、雪嶽高等学校の訪問団が米子に来られる予定です。



2か国語で
詩を創作

海外教育旅行事業への助成について

〈申請主体〉 県内学校教育・保育機関(高等教育機関を除く)

〈対象事業〉 海外派遣型教育旅行事業に対する助成

〈助成額〉 子ども1人当たり10,000円

※渡航の際、県内発着国際利用の場合は更に1人当たり10,000円を上乗せます。

詳細はこちら

